

上富岡倶楽部

2013.3
vol.5

長岡技術科学大学同窓会報

「30周年記念号」

卒業生として想うこと －温故知新とV S O P－

（勉にいがた産業創造機構 テクノプラザ長 宮下 孝 洋



『少年老い易く 学成り難し』月日の経つのは早く、自分は若いと思っていても直ぐに年老いてしまうが、学問は成し遂げ難いという教えを、全くの他人事だと思ってこれまで過ごしてきた。第1期生として、昭和57年(1982年)3月に長岡技術科学大学大学院を修了してから30年間、まさに『光陰矢の如し』を実感している。

在学生および最近卒業された皆さん、人生はあっという間でござる。学生時代、初代川上学長と時々学生食堂と一緒に食事をしながら、まるで父親が子供に言い聞かせるように『君たちは・・・』という言葉で始まる訓話が心の奥底に残っている。即ち、それは創設の理念『考え出す大学(Think-out University.)を目指す為のV・O・S』であり、技術者として大切なことは、あきらめない探求心を持った活力(Vitality)、人まねではない独創の力(Originality)、そして世の中の人々に奉仕する心(Services)を忘れないようにということを教わった。社会人となってからは、幾多の失敗を繰り返しながら、そのVOSに加えて『P』が大切であることを学んだ。Pとは、Person, Personal, Personality, Powerful, Professional and Philosophyである。まずは人間力、人として(Person, Personal, Personality)、人格・人柄・個性を磨くこと。さらに力強い、説得力のある人を動かす力(Powerful)を持つこと。専門を極める、研鑽を重ねた職業人(Professional)となること。崇高なる哲学と人生観(Philosophy)、そして最後が悟りとあきらめ、無我の境地である。

(※補足：VOS+P=VSOP → VSOP)

振り返ると、私の生き様は誰にでも勧められるものではない。『勘当』という言葉は殆ど死語になってしまったが、親の意に沿わず熊本の実家を15歳で飛び出した私の半生は波瀾万丈であった。学資もなければ生活費もない、そんな自分に道を開いてくれたのが宮崎県延岡市の旭化成であった。今はない旭化成工科学院(旧称：旭化成工員養成所)という名前を知っている方は殆どいないだろう。当時、中学を卒業して働きながら学べる学校は幾つかあったが、工業高校3年分を2年で詰め込む教育は厳しいものの、生活費を貰って勉強できる環境は魅力的であった。さらに、その工科学院を卒業する際に、一人だけ特例で高専に進学させて頂いたことも幸運であった。そして、高専卒業時に、お世話になった旭化成に戻ろうとしたがオイルショック後で採用ゼロの年にぶつかってしまった。人間何が幸いするか判らないものである。偶然にも、母校に2年

ほど助手として勤めることができ、そのとき師事した先生から長岡に技術科学大学が新設されることを教えて頂いた。学資に加えて生活費等の不安が心を過ぎったが、それより何より、教員として学生を指導する立場になって初めて、自分には詰め込みの『知識』はあっても、人にものを教える『実力』がないことに気づき、機会があればもう少し学びたいと考えていた。長岡技大への編入学の道は、私にとって渡りに舟であり、学資と生活費はアルバイト等で何とか考えたものの、結局卒業時の借金は3M¥を超えた。

昭和53年(1978年)4月、長岡技術科学大学に入学して最初にやったことはクラブの創設であり、硬式テニス部、写真部他幾つかの創設に関わった。最初の2年間は、学生寮で専攻に関係なく全国からやってきた強者どもと友達になることもできた。今でもその頃の仲間と繋がっており、私にとってかけがえのない財産となっている。大学周辺の風景はその当時とそれほど違ってはいないが、学内の建物は様変わりしている。何もないのが当たり前、前例がなくても果敢にチャレンジするというパイオニア精神はその頃培われ、何もないダンプカーの行き交う工事現場を、毎日泥付き長靴を履いて寮から教室まで通った。

懐かしい思い出は尽きることがない。『温故知新』、古きを訪ねて新しきを知ることの大切さも実感している。卒業時に有志によって設立された同窓会も創設30年が経過した。そして、寄り道して入学した私は還暦を迎える。何れも節目の歳であり、卒業生は是非来学して温故知新を、現役学生には『明日は我が身、人生はあっという間』であることをお伝えしたい。人生は明るく、楽しく、元気よく！ ブランデー(VSOP)でも飲みながら・・・、プラスPの大切さを忘れることなく。

最後に、この原稿を作成中に同郷でもある木山聡氏の訃報が飛び込んできた。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



30周年記念イベント

同窓会発足30周年記念行事「復活！開学記念マラソン大会」と祝賀会を開催

同窓会常務理事 芳賀 仁（電気系・助教）

平成24年度は、長岡技術科学大学同窓会が発足して30周年の節目の年です。

本学では以前、クラブ連絡会が中心になって、開学記念日（10月1日）に合わせて「開学記念マラソン大会」を企画していましたが、現在は行われておらず、知る人も少なくなりました。そこで同窓会では、30周年記念行事として平成24年9月29日に「復活！開学記念マラソン大会」と題してマラソン大会を企画して、さらに記念祝賀会も開催いたしました。

マラソンコースは、親子、小学生を対象にした2kmコースと、一般向けの5km、10kmをそれぞれ大学周辺に用意しました。また、ご家族でも記念行事を楽しんでいただけるように、スタート/ゴール地点の体育保健センター前に、アンパンマンのふわふわドームと縁日コーナーも企画いたしました。マラソン大会と祝賀会には、卒業生、旧教職員、在学学生、教職員、地域の皆様、そして技大関係から多くの方々にご参加いただきました。

当日は、お天気にも恵まれて新原学長のスターター号砲のもと、参加者一斉にスタートしました。登り下りのきついコースにも関わらず、沿道の方々の力強い心温まるご声援を受けながら、全員が無事に完走を成し遂げ爽やかなゴールの瞬間をご一緒できました。マラソンを通じて、苦楽を共にした仲間と一緒に、お世話になった母校周辺や懐かしい近隣地域を走り、汗を流して、お互いの健康を喜び合うこともできたと思います。

ゴール後は、用意した軽食（おにぎり、トン汁）を食しながら中庭で談笑している爽やかな光景が印象的でした。表彰式では、各コースの上位入賞者に賞状と副賞が新原学長より手渡されました。また、参加者全員に参加賞（賞状、メダル、スポーツタオル他）も配られました。セコムホールで行われたその後の記念祝賀会には、約80名の方にご参加いただき、記念の集合写真も撮影して、盛大に



30周年をお祝いすることができました。

このような、同窓会が中心になってマラソン大会を企画するVitality、マラソン大会にアンパンマンを組み合わせるOriginality、地域ならびに技大関係者皆様のご理解とご協力Servicesを得られたのも、日頃の皆様の『VOSの精神』のお蔭と思っております。本当にありがとうございました。

最後に、本行事の準備期間が、企画立案(7月上旬)から当日まで約3カ月と短期間だったため、開催が心配されることもありました。しかしながら、当日まで諦めず、学校祭のように夜を徹して楽しく準備を全うできたのは、学生時代に実戦空手で鍛えられた『押忍の精神』と、実戦空手の皆様のお蔭と思っております。この場を借りて感謝申し上げます。押忍

参加者

- ・2kmコース：23名（同窓生：1名、同窓生のご家族：5名、地域から：17名）
- ・5kmコース：60名（在学生：47名、同窓生：3名、同窓生のご家族：3名、地域から：3名、教職員：4名）
- ・10kmコース：52名（在学生：41名、同窓生：6名、地域から：4名、教職員：1名）
- ・スタッフ協力者：90名



マラソン大会、アンパンマンのいる風景

長岡技術科学大学 副学長 齋藤 秀俊

開学記念マラソンが復活しました。20数年前の筆者が学生の頃は、毎年10月1日になるとクラブごとなどのチームを作って盛り上げましたが、いつのまにか消えました。そのマラソンが久々に行われるということで、前日夜半に出張先から戻り、当日に備えました。

朝、学内の中庭に集合して、すでに集合している皆さんの顔を見ると眠そうでした。ドンと構えていたアンパンマンを見たら、「なぜアンパンマンなのだろうか？」との疑問も頭をよぎりましたが、そのアンパンマンも男女が勢ぞろいした風景に溶け込んでいたように思いました。

当日は、新原学長が朝から張り切っておられ、そのまま走り出してしまうのではないかと危惧するほどでした。筆者は学長よりも20歳若いにもかかわらず、最初から走ることは想定しておらず、AED(自動体外式除細動器)を携えて万が一に備えることに徹しました。磯部同窓会長は筆者とあまり年齢が変わらないにもかかわらず「走る」と宣言しており、実際に芳賀先生とともに走りました。

さて、スタート後はAEDを積んだ車両に乗り込み、マラソンコース上で待機することにしました。もっとも長いコースである10kmコースのリスクが高いだろうということで、10kmコースのもっとも標高の高い中間点を待機場所を選びました。田宮病院からさらに坂を上がり、歴史博物館に向かう道を右折して歴史博物館に向かう途中です。



待機場所にて救護がてら10kmコースを走る走者に声援していました。トップから3位までの走者はフォームも安定していて、「走り屋」という感じでした。それ以降の参加者では徐々にフォームが乱れ、苦痛に満ちた表情に変わり、辛かったと思います。もちろん、大学から下ることなく一本調子で坂を上ってきたので無理ありません。この中間地点から先は下りが多くなるので、だいぶ楽になるはずです。

そうやって出場の52名が大学に戻り、食堂前のゴールに帰ってきました。筆者は車両なので出場者よりも早くゴールに戻ってほぼ全員を迎えました。ゴールに近づくと苦悶の表情は安らかな笑顔になり、さらに頬に赤みを帯びてきました。なるほど、その顔はまさにアンパンマンのそれであり、妙に合点しました。

マラソン大会の可能性

建設工学課程3年 クラブ連絡会長 常前 将大

この同窓会報を読んでいただいている皆様、はじめまして!! 私はクラブ連絡会で現在会長を務めさせていただいている常前将大です。この度は同窓会報に文章を載せることができるということで、これは大変貴重な経験なのではないかと思っています。至らない文面かとは思いますが、最後まで読んでいただけると幸いです。

今回、私はマラソン大会の運営として参加させていただくことになりました。大会の運営はクラブ連絡会主催の大会がいくつかあり、そのどれもが良い経験で印象深いものです。しかしながら、今回参加させていただいたマラソン大会という競技、昨今のマラソンブームに流され、私も常日頃からランニングは室内・室外を問わず行っていましたが、参加すること自体実は人生初めての経験でありました。高専出身の私ですが、高専時代も5km、10kmのような距離を走る企画はなく、私はこのマラソン大会は「逆に新しい!!」と感じました。学内でマラソン大会が行われる

ことは世間一般では常識とまではいかなくとも、開催されるとなるとそれに納得、真新しさは薄い印象かと思いますが。しかしながら、今回のようなマラソン大会がいざ開催されれば、予想を上回る参加者に集まっていただくことができ、ここにマラソン大会の人気の根強さ、参加していただいた近隣住民や技大生の活発的なエネルギーを感じました。

現在、技大には60を超えるサークルが活動をしており、中には人数が100人を超えるサークルがいくつかあります。北は北海道、南は沖縄まで全国から集まるこの学校において、サークルは学年・学科を問わず交流ができるとても重要なきっかけの一つです。ですが、それはあくまでも技大の中だけに留まります。今回は近隣住民の皆さんも参加することで、地域全体で交流できる大きなきっかけになるのではないかなと感じました。最後になりますが、今回の大会は非常に素晴らしいものになったと感じています。次回開催されるとなれば、今度は選手として参加できればと思います。

同窓会イベント

女子学生、女性教職員対象のメイク講座を開催しました！

同窓会理事補 田辺 里枝（機械系・助教）

11月14日(水)、本学の女子学生、女性教職員を参加対象としたメイクセミナーを開催しました。これは、同窓会の学生支援事業の一環として、長岡技術科学大学就職支援室の共催、株式会社資生堂の協力でH21年度から始めた女性向けのセミナーです。

今年は、学生22名、教職員4名にご参加いただき、スキンケアやメイクの基本を、90分の実習を通して学びました。参加者からは、

「とても丁寧な説明で分かりやすかった。」

「就職に対する相談にも対応していただき、とても助かりました。」

「女性の先輩も少ないので、メイクのことなど聞けてよかった。」

「具体的に個人に合わせた方法を教えていただいてとても良かった。」

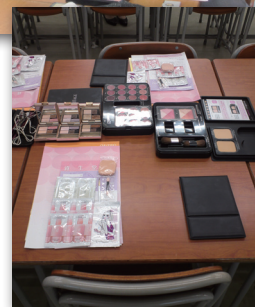
「Excellent seminar for students.」

などの感想をいただき、大変好評でした。

このようなメイクを学ぶセミナーの開催は、工学部の



本学では非常に珍しく、貴重な体験だと思います。私自身、このメイクセミナーを担当するまで、メイクを学ぶ機会はありませんでした。印象のよい、好感のもたれるメイクテクニックを知ることは、就職活動だけではなく、日常生活でも役に立つと思います。是非、多くの方に参加して欲しいと思います。



資生堂メンズセミナーを開催しました！

同窓会理事 山口 貴幸（技術支援センター）

同窓会主催による「資生堂メンズセミナー」を開催しました。女子学生向けメイクセミナーは、すでに4回実施していますが、男子学生向けにも開催してはどうか、という声を受け、今回初めて試験的に実施したものです。メイクセミナー同様、株式会社資生堂にご協力いただき、60分間の講義の中で、洗顔・洗髪の正しい方法、スキンケア・ヘアケアなどの基礎を分かりやすく指導していただきました。今回が初めての開催でしたが、男子学生30名にご参加いただきました。



参加者からは、

「役に立つ情報ばかりで勉強になった」

「正しいケアの方法を知らなかったので、参加してよかった」

などの感想をいただき、大変好評でした。

身だしなみに関して、男性は女性よりもおろそかになりがちですが、これから就職活動を行っていく、あるいは社会に出ていくにあたり、良好な対人関係を築いていくためには、外見にも多少の気遣いが必要になります。来年も開催する予定ですので、特に普段身だしなみに気を使っていない男子学生にはぜひ参加していただきたいと思います。

ビジネスマナー研修会を開催しました！

同窓会理事 **吉田 富美男**（経営情報系・助教）

2012年10月21日(日)に長岡技術科学大学の在学生の皆さんを対象とした「ビジネスマナー研修会」を開催しました。10:30から18:30まで丸1日をかけて、ビジネスマナーを学ぶ有料セミナーです。今回は大学に御共催いただき、事務局第1会議室を会場としました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、参加者の皆さんは、日頃あまり身に着ける機会の無いスーツ姿で集まってくださいました。

研修会は、配布されたテキストに沿って、ディスカッションや実習、ロールプレイなどを多用して進められました。はじめは皆さん少し硬い感じでしたが、講師の方が親しみやすく、積極的に声をかけてくださったため、すぐに和やかな雰囲気に変わりました。

社会人としての心構え、から始まり、挨拶、表情、アイコンタクト、動作、身だしなみ、言葉遣いといったコミュニケーションの基本を学ぶころには、様々な質問が飛び交うようになり、名刺交換や電話対応、ビジネス文書・ビジネスメール作成では、参加者の皆さんからもアドリブが飛び出すなど、楽しい雰囲気の中約7時間に及ぶ研修が終了しました。

おかげさまで参加者の皆さんから「量、内容ともに充実している」「実習が多く身につつきやすい」「非常に良い雰囲気ですセミナーを受けられた」といったご意見をいただく

ことができました。

一方、オブザーバーとして同席させていただいた私は研修会終了後、技大生全員にビジネスマナーを学んでもらいたい、と感じました。驚いたことに、参加者の皆さんからも同じご意見をいただきました。

もちろん研修会に参加すればすぐにビジネスマナーが身につく、というわけではありません。マナーとは他の人を思いやる心であり、その考え方を学び、日頃から他の人のことを考えて行動することによって自然と身に付くものです。そういった意味でマナーの習得はVOSの精神、特にServicesに通じるものがあります。長岡技術科学大学の卒業生として社会に誇れる人材を送り出すためには、なるべく早い段階で、ビジネスマナーを意識する機会を設けるのも1つの方法なのかもしれません。

最後に厳しい経済事情の中、参加費を払って自己研鑽に励んでくださった参加者の皆様に改めて御礼を申し上げます。これは個人的な感想ですが、研修を終えた参加者の皆さんには、何か自信といいますか安心感といいますかそういったものが垣間見えたような気がしました。この研修会が皆様のご活躍の一助となれば同窓会としてこれに勝る喜びはありません。



OB・OGトークショーを開催しました！

同窓会理事 **山岸 郷志**（技術支援センター）
同窓会理事補 **安井 忠**（シンコー(株)）

同窓会では、在校生の進路選択、就職活動の支援のために、『OB・OGトークショー』を毎年開催している。2011年度は2011年12月に、2012年度は2013年1月にそれぞれ開催した。両年ともに、本学卒業・修了後、概ね3年以内のOB・OGを講師にお迎えし、ご自身の就職活動の体験談を披露していただいた。

各企業より派遣いただいたOB・OGは、リーマンショック、あるいは東日本大震災以降の、実際に就職活動に苦労した面々であった。

詳しい報告内容は割愛するが、講師各位の、就職先最終決定に至る迄の実体験に基づいた生々しい経験談と、その際の各自の思いを自らの言葉で語っていただく事ができ、聴講者にとって“重い”内容も含めて、真実の信頼のおける情報が提供されたものと思う。

質疑応答においても、出席者からの積極的な問いかけが多くあり、それに対しての報告者からのリターンは、これからの方向性への指針となったであろう。その後の懇親会においても、OB・OGを囲んでの、更なる本音トークで盛況に進行し、終了予定時間の超過という事態も発生した

が、これは良い方向での不具合と認識したい。

長岡技術科学大学が今後も”全国有数の就職に強い大学”であり続けられるべく、本同窓会も微力ながらフォローを続けられればと思う。

今後の方向性として、大学主催の合同企業説明会に非常に多くの企業から登録いただいている現状もあり、これらを有効に活用する体制が確立されれば、このトークショーも、トークテーマをより絞り込んだものとして、さらに聴講する学生へのニーズに応えた内容に更新していけるものとする。

講師を務めていただいたOB・OGには、学生時代、本トークショーに参加したという方がおられた。今回参加した在校生の中にも、何年か後には、OB・OGとして再びこのトークショーに来てくれる人もいだろう。この企画は、「後輩のために」、「母校のために」、そんな思いが重なって初めて成立し得るものである。最後にそんな同窓生の思いに感謝の意を表し本稿の結びとする。



(写真：2012年度OB・OGトークショー)

同窓会活動支援のためのIT環境の整備と今後の展望

同窓会理事 吉田 富美男（経営情報系・助教）

背景

長岡技術科学大学同窓会は、会員相互の交流支援、大学発展への寄与を目的に1982年に発足し、その後、会員の皆様の御協力のおかげで、地道ながらも着実に活動を続けてまいりました。しかし、同窓会発足から30年が経過し、時代の変化とともに同窓会を取り巻く状況も大きく変化しました。

同窓会発足当初は、一般的な連絡手段は固定電話や郵便しかなく、会員同士の交流を支援するために、同窓会名簿を発行していました。しかしその後、多くの方が個人情報の重要性を意識するようになり、2005年の個人情報保護法の施行を受けて、本学同窓会でも同窓会名簿の発行を停止することとなりました。一方、技術の進歩によって、携帯電話やEmailを使って親しい友人といつでも連絡が取れるようになり、さらにSNSを利用すれば簡単に同窓生を探ることができるようになりました。

このように従来は、同窓会の会員同士が連絡を取るためには、同窓会名簿が必要不可欠でした。現在でも、SNSだけで全ての同期生を見つけることは困難ではありますが、事実上、同窓会を介さずとも多くの同窓生と自由に交流ができるようになりました。

それでは、もう同窓会は必要ないのでしょうか。

私はそうは思いません。時代の変化とともに、同窓会が果たすべき役割が変化しているのだと思います。同窓会名簿を管理するだけではなく、同窓会名簿の情報を活用して、会員の皆様の御活躍を支援するサービスを提供することこそが求められているのではないのでしょうか。

長岡技術科学大学は、現在も全国の高専と深いつながりを持っており、多くの企業と協力しながら発展を続けています。卒業生も15000名をこえました。同窓会を介して、これら大学のネットワークや卒業生を起点としたネットワークをリアルタイムに連携させることができれば、様々なサービスを提供できるはずです。

IT環境の整備

そこで同窓会では、発足30周年を機に、

- ①迅速、安価、効率的な連絡手段の確保
- ②個人情報を保護した会員相互の交流支援
- ③サービス提供基盤の構築

の3つを目的として、同窓会活動を支援するためのIT環境の整備を行いました。

(1) 同窓会ホームページのリニューアル

同窓会では2003年からホームページの運用を開始しました。しかし、従来の同窓会ホームページは、代々受け継がれていたものを流用していたため、デザインも少々古くなってしまいました。また管理のための環境が整備されていなかったこともあり、様々な記事が整理されずに掲載されており、しかも情報更新の頻度も十分とは言えませんでした。

そこで、2012年3月に同窓会ホームページをリニューアルし、デザインを一新するとともに、CMS (Contents Management System) を導入することによって、簡単に更新作業を行えるようにしました。まだコンテンツはそれほど多くありませんが、今後は、新しいホームページを利用して、積極的に情報発信を行っていききたいと思います。



<http://nagaokaut.alumnet.jp>
リニューアルした同窓会ホームページ

(2) 同窓会Facebookページの開設

同窓会ホームページを使えばリアルタイムな情報発信が行えますが、ホームページにアクセスしてくれた方にしか情報を提供することができません。そこで、同窓会ホームページのリニューアルから約半年後、2012年8月に同窓会Facebookページを開設しました。Facebookページを利用すれば、口コミ機能や広告機能などを利用してより積極的な情報発信が可能となります。

長岡技術科学大学の卒業生や在学生の中にもFacebookを利用している方は多く、いろいろな方にアクセスしていただけるようになり、それによって同窓会ホームページへのアクセス数も増加しました。残念ながらまだ開設したばかりで、同窓会ホームページの記事へのリンクを掲載するくらいしかできておりませんが、将来的にはカスタムページを用意し、Facebookの機能を活用して、同窓会独自のサービスを提供していきたいと考えています。



<https://www.facebook.com/NutAlumni>
同窓会Facebookページ

(3) 同窓会システムの導入

会員の皆様の個人情報を保護するため、同窓会名簿の発行を停止してから、同窓会では、会員相互の交流を支援するための代替手段を模索し続けてきました。様々な調査と検討を重ねた結果、2012年3月に同窓会システムの運用を開始しまし

た。さらに、1年後の2013年3月には同窓会システムをバージョンアップすることによって、ユーザインタフェースが改善され利便性が向上しました。

同窓会システムはリニューアルした同窓会ホームページと一体となっており、同窓会ホームページの右側中段にあるアカウント入力部分から会員のみがログインして利用できます。もちろん利用料は無料です（すでに会員の方にはログインのためのアカウント情報を配布済みですが、不明の場合、あるいは忘れてしまった場合などは、いつでも同窓会事務局にお問い合わせください）。

同窓会システムは、会員限定の実名簡易SNSです。他のSNSと比較して機能は劣りますが、会員のみが利用可能であり、他のSNSで見つけれない会員も登録されています。

また、会員の交流に関するサービスも使いやすくなりました。特に、登録されている個人情報について、その公開範囲も含めて自分で管理できるようになるとともに、部活動や卒業年度などのグループ単位で簡単に情報を共有できるようになりました。

さらに従来は郵送が中心であった、同窓会から会員の皆様への御連絡も、同窓会システムを利用することによって、低コストで行えるようになりました。



http://nagaokaut.alumnnet.jp
同窓会システムトップページ

会員の交流に関する主要サービスの比較

主要サービス		同窓会名簿発行時 1982年～2005年	同窓会名簿発行停止時 2005年～2012年	同窓会システム運用後 2012年～
会員情報の参照	手続き	—	申請書類が必要	—
	所要時間	数分	2～3週間	数分
登録情報の更新	手続き	申請書類が必要	申請書類が必要	—
	所要時間	数ヶ月～2年	1～2週間	数分
個人情報の提供	情報の提供先	名簿所有者全員 (不正入手者も含む)	同窓会役員が 個人情報保護方針に 基づいて判断	本人が設定可能
	提供する情報	全て		
他の会員との連絡	会員の検索	△(手作業)	×	○
	会員への連絡	○(電話、郵便)	×	○

今後の展望

将来的に同窓会では、整備したIT環境を活用して会員の皆様と積極的な情報交換を行うとともに、会員の皆様の情報やネットワーク（研究室仲間、仕事仲間、部活メンバーなど）を集約し、それをサービス基盤として、人、物、資金、情報などの様々な交流を仲介・支援するサービスを展開していきたいと考えております。

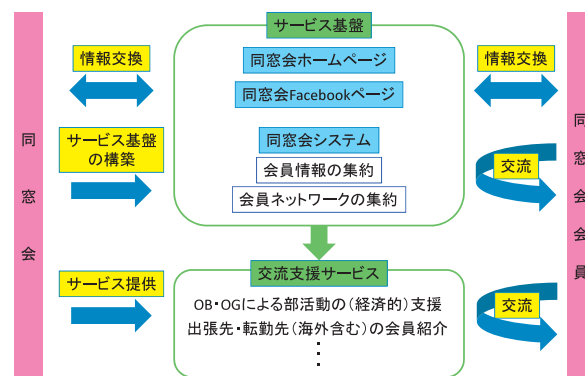
そのために、以下の3点を中心に活動を進める予定です。

第1に、同窓会システムの周知を図ることです。システムを導入しても、会員の皆様がその存在を御存じなければ意味がありません。同窓会では、これまで同窓会システムの周知を図ってきましたが、引き続き、様々な機会を活用して、同窓会システムをご利用いただけるよう会員の皆様に呼びかけを行っていききたいと考えています。

第2に、同窓会システムの御利用を促進することです。システムを導入しても、会員の皆様に御利用いただければ意味がありません。そのためには使いやすい環境が必要です。同窓会システムには、卒業年度、および部活動のグループがあり、それぞれのグループ単位で情報を共有することができますが、それだけでは不十分です。そこでバージョンアップを機に、全ての研究室のグループを作成するとともに、大学教員の皆様にも同窓会システムを御利用いただけるようにして、研究室単位で情報を共有できる環境を用意します。その後も、必要に応じてグループを追加し、様々なコミュニティでの交流を支援していきたいと考えています。

第3に、同窓会システムを活用したサービスを開発することです。同窓会システムの利用者が増加し、多くの会員の皆様と簡単に連絡が取れるようになれば、様々な仲介・支援サービスをリアルタイムに提供することが可能になります。そのために、同窓会が積極的に会員の皆様の御要望をお聞きし、その御要望を満たすようなサービスを試行錯誤しながら提供していきたいと考えています。

なかなかすぐにはいきませんが、同窓会が会員の皆様にとって必要不可欠なものとなるよう、皆様の御意見をお伺いしながら一步步着実に進んでいきたいと思いますので、今後とも長岡技術科学大学同窓会をよろしくお願いいたします。



IT環境の整備と交流支援サービスの提供

消雪パイプ設置事業の助成

消雪パイプ設置へのご支援に感謝いたします。

長岡技術科学大学総務部総務課

技大通り（上富岡交差点から本学福利棟下の交差点までの市道西幹線42号線、全長約500m）に消雪パイプが完成してから2回目の冬を迎えました。

消雪パイプのおかげで、大雪の降った後でも路面には雪が無く、2車線が確保され、学生・教職員の通学・通勤路として、また、アパートに暮らす学生の生活道路として安全に通える道路ができました。しかし、消雪パイプができるまでは、積雪時は車のすれ違いができないほど道幅が狭くなり、また、坂道のため、圧雪や凍結にスリップして立ち往生する車も多くありました。特に歩道がないため路肩の歩行は困難で、非常に危険な状況でした。

消雪パイプの設置については、以前より要望はあったものの実現は困難でした。地元と大学との連携を図る会議（地元懇和会）で話題に上ったこともあり、平成21年より地元深才地区（連合町内会、上富岡町内会、下宿貸間組合）と本学の共同事業として、消雪パイプの設置について具体的な検討に取り掛かりました。工事費用の工面が大きな問題となりましたが、本学負担分については同窓会よりご理解と多大なご支援をいただいたことにより、事業を進めることができ、平成23年6月より工事に着手し、11月に完成することができました。検討開始から2年がたっていましたが、上富岡交差点から本学へのアクセスは、冬も良好となりました。

2年続けて大雪となりましたが、技大通りは雪を気にす



消雪パイプの設置前：道幅が狭く、圧雪になっている。（積雪時）



2車線が確保され、圧雪も無い。（設置後）

ることなく安心して通行できる道になり、技大生の通学の安全に大きく貢献しているところです。同窓会の皆様のご支援に深く感謝を申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

24年度技大祭報告

技大祭実行委員長 菊地 環（生物機能工学課程4年）

こんにちは。第32回技大祭実行委員長を務めました菊地です。今年度の技大祭について、報告させていただきます。

今年度の技大祭は「HERO TIME」をテーマに、来場者に技大の魅力を発信することを目指しました。期日の9月15日、16日は両日も天候に恵まれたこともあって、二日間で延べ5,000人ももの来場者をお迎えすることが出来ました。例年の来場者数を大幅に上回り、一時は多数ある学内すべての駐車場が満車となるほどでした。

このように大勢の来場者をお迎えして好評のうちに幕を閉じた技大祭でしたが、その内容はどのようなものであったか、ご紹介させていただきたいと思います。まずは模擬店、サークル演舞などの「お祭り」の空気を作り出す催し物。また、留学生会による各国料理の販売を行った「国際祭り」のブース、教職員の方々にご協力頂いた「研究室公開」など多数の留学生、生活の中心となる研究といった技大の特色を活かした催し物もありました。今年は実行委員会も簡単な体験型の実験を屋外で開催し、楽しみながら学んでもらおうという試みも行いました。さらに能の披露、



押し花教室、地域の食材を使ったピザの販売など、地域の方にもご協力を頂きました。くわえて今年はゲストに奥華子さんをお迎えし、来場者の皆様には大いに楽しんで頂けました。

さて、この技大祭の開催にあたりまして同窓会からは助成、OB・OGのご縁で企業様からは協賛という形でお力添えを頂きました。各種企画の充実などの運営費に充てさせて頂き、お陰様で無事に技大祭を終えることが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次回、第33回技大祭は2013年9月14、15日開催の予定となっております。皆様お忙しいとは思いますが、足をお運びいただければきっと楽しんで頂けることと思います。この年に一度の技大祭を、母校への「里帰り」の機会と捉えて頂ければ幸いです。

軟式野球部全国大会報告

「全日本大学軟式野球選手権大会出場」

長岡技術科学大学軟式野球部
中村 友樹（建設工学課程4年）

長岡技術科学大学軟式野球部は平成23年11月に熊本県で行われた第34回全日本大学軟式野球選手権大会、平成24年8月に秋田県で行われた第35回全日本大学軟式野球選手権大会に二年連続で出場しました。また平成23年4月に創部し、創部一年目から全国大会に出場することができました。これは努力してきた部員の力だけではなく、多くの方々が協力して下さったためこのような結果を残せることができたのだと思います。

平成23年度の全国大会は8月に開催される予定でしたが、3月に東日本大震災が発生したため期間を延期し11月に熊本県で開催されました。この全国大会に出場するまでに新潟県にある大学やその学部の軟式野球部が出場する新潟県大会を勝ち抜かなければなりませんでした。創部一年目のため相手校の情報がなかったのですが苦戦しながらも準決勝に進むことができました。準決勝ではサヨナラ勝ち、決勝では逆転満塁ホームランが飛び出し見事優勝することができました。創部一年目で相手校の情報がなく、相手に合わせず一戦一戦全力で戦った結果が現れたのだと思います。全国大会では沖縄県代表の沖縄国際大学と対戦し、相手投手の巧みな投球や堅い守りから打ち崩すことができず残念ながら0-1で敗れてしまいました。

平成24年度の全国大会は秋田県で開催されました。これも新潟県大会を勝ち抜かなければならず、準決勝で延長の末勝利し、決勝では最終回の逆転勝ちにより全国大会に進むことができました。全国大会では前年度準優勝した神奈川県代表の神奈川大学と対戦しました。しかし、力の差を見せつけられ1-8で敗れてしまいました。しかし、前年度準優勝校相手に全国大会で初となる1得点をあげるこ



とができ、自分たちの自信になりました。

1年生から入学したメンバー、高専から3年生として編入したメンバー、そして後輩たちと共に夢の全国大会に出場できたことが本当に嬉しいです。これも野球好きが集まり、日々の練習で努力してきた結果だと思いました。また普段行くことのできない熊本県や秋田県に行き、県外の大学と対戦することができて本当にいい思い出となりました。

しかし、軟式野球部を創部した当初は何一つ道具が無く、頼れる人もいませんでした。しかし部員同士でお金を出し合い、ボール、ヘルメット、ユニホームなどの道具から新潟県大会の大会参加費なども集めて野球に取り組んできました。しかし、県大会を勝ち抜き全国大会に出場することになりましたが、遠征費が部員同士で払える額を大きく超えていました。そのとき技大の生徒はもちろん、先生方や職員の方まで多くの方々が募金というかたちで協力して下さいました。また、同窓会の方々からは二年続けて助成金を補助していただきました。私たちの活動は多くの方々に支えられて続けることができたのだと感じました。私たちとしては全国大会に出場したことにより、技大生が頑張っているというところをお見せすることができたのだと感じています。創部当初から活動を行ってきた四年生は引退しましたが、入部している後輩たちがこれから活躍してくれることを望んでいます。また軟式野球部は常に努力を続けていくのでこれからも温かい目で見守っていただけると幸いです。ご指導または協力して下さい皆様本当にありがとうございました。

会員寄稿

長岡で得たもの

ダイハツ工業株式会社
辻 泰明（機械創造工学専攻 平成22年修了）

この度は寄稿の依頼を頂き、ありがとうございます。私が「長岡」で過ごした4年間で得たものについて書かせて頂きます。

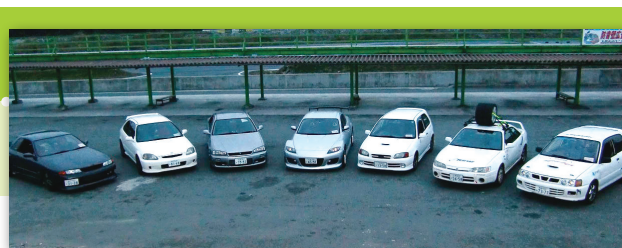
それは「今の自分そのもの」です。

今の私はどんな状態かというと「車漬け」です。

私にとって車とは「仕事」であり、「足」であり、「心を開くもの」です。

平日は、仕事で車の不具合（異音）の解析・対策を行っています。週末は、趣味で車やレーシングカートで走ったり、旅行に行ったり、車を修理したり。通勤も車です（テストコース勤務なので田舎にあります）。車に触れない日はありません。こうなったのは「自動車部」という悪の道？に入ったためです。

長岡へ来た当時、将来については深く考えていませんでした。もともと車に興味はありましたが、そこまで好きではありませんでした。でもせっかくなので何か部活をやろうと思い、寮の窓から部室が見えていた自動車部に入ることにしました。（近付き難い雰囲気でしたが…）



そこで知った車の魅力に衝撃を受けました。自分の力だけでは到底出来ないことができる。好きなところに、好きなときに自由に行ける。車ごとに目的と個性があり、操る楽しさがある。そして、一歩間違えると非常に危険なものになってしまう。

このような、とても奥の深い「車」と、それに乗る個性豊かな人たちとの関わりにすっかり魅了されてしまいました。将来も車関係で仕事をしたいと思うようになり、今、それが実現しています。

在学中は「もう少し雪の少ない便利な所に建てることはできなかったのか」と思うこともありましたが、長岡に来たことで車という生きがいを見つけることが出来、感謝しています。

最後に皆さんにご提案です。一度、個性的な車を所有されてみてはいかがでしょうか。最近の日本の車は個性が薄く、環境、燃費、安全性能が目立たなくなりました。しかし、ちよつと昔の車や輸入車には、一部の性能に特化した個性豊かなものがたくさんあります。一度しかない人生、車を通して皆さんの中で眠っている心が開き、新たな人生が始まるかもしれませんよ。

会員寄稿

「ちょっとした旅」

長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教
山本 隆広 (エネルギー・環境工学専攻 平成20年修了)

皆さんこんにちは。私は長岡技術科学大学を巣立って5年目を迎えました。これまでポスドクとして2つの職場で武者修行してきました。その後、今から2年前に、長岡に再び戻ってきました。長岡という地が私を引き寄せたのか、私が長岡という地を愛しているのか定かではありません。きっと、相思相愛なのではないかと思っています。例えば、幼い頃からテラノザウルスのような形をした新潟県に憧れており、感慨深いものがあります。ここでは、せっかくの機会なので武者修行のちょっとした旅について紹介したいと思います。

私の武者修行先は茨城県のつくばにある研究所でした。3月後半なのに深々と雪が降っている深夜2時頃に荷物を山ほど車に積んでつくばに向けて出発した時の心境は今でも忘れられません。学生として7年も過ごした長岡を離れ、不安でしょうがありませんでした。その時の雇用の根拠となる予算が当時の麻生内閣の補正予算であり、国会が紛糾していたため、この雇用は3月末ぎりぎりまで決定しなかったのを覚えています。新しい職場のグループは高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究を行っており、研究場所である北海道稚内市近くの幌延町（トナカイの町）とつくばの行き来をしていました。別の職場では、地球温暖化によって世界の水資源にどのような影響があらわ

れ、それにどう適応していくか？という研究を行いました。世論の地球温暖化に対する関心の高まりと気候変動に関する政府間パネルの第5次報告書作成に向けた機運が高まっている中、様々な貴重な経験をすることができました。東日本大震災の影響もあり、つくばを離れる前日まで業務に追われ、これまた慌ただしく長岡に戻りました。

現在、長岡高専に勤務して2年目です。この原稿を書き始めた日に卒業研究発表会があり、初の3人の教え子が研究発表を行いました。高専生の頃の私の発表と比べると、何百万倍も立派な発表で、日本の将来も明るいなあ～と思っているところです。他の先生からも、「自分の言葉でしゃべれてるし、自分で研究を行ったことが伝わってきた。」というお褒めの言葉を頂きうれしい限りです。実はその3人の学生のうち、2人が長岡技術科学大学に進学する予定です。母校で学生生活を謳歌することを願ってやみません。



ある研究所グループの集合写真

稚内空港近くで鳥に餌をあげている筆者

「成長」を「取り戻す」力の在りか

(株)トーアエンジニアリング代表取締役
野口 睦 (生物機能工学専攻 平成7年修了)

同窓生、在校生の皆様には於かれては健やかにお過ごしと存じます。さて、私も本学での学びを終えて20年に手が届かんとしております。現在は、日本の木造住宅に於ける木材加工業向け設備として、CAD・CAMシステムおよび木材プレカット加工機の製造、販売を手掛ける会社を預かっております。日本の木造住宅は日本文化を象徴する伝統技術ですが、現代日本の住宅産業では大工さんなど技能職の匠の技術者が激減しており、システム化や工場での機械加工化の推進が不可避な中、その役割の一端を当社が担わせて頂いてきました。しかしながら近年、極めてドメスティックな産業である住宅業界も、工場労働力単価の低減や供給安定性の担保といった側面から東南アジア諸国を中心とした海外進出が加速化されています。我々もパートナー企業を通じて、インドネシア、中国、ベトナム、タイ

等へCAD製品の提供を中心に携わっています。幸い、これら諸外国を訪ねる機会を得ておりますが、彼の地を訪れる度、その活力に舌を巻く場面に多々遭遇します。文化も風習もまったく異なる日本の住宅向けに日本語表記のCADを使いこなす姿、食欲に成長を求める姿勢には正直頭が下がる思いです。世に言う「失われた20年」から脱却して、新しい活力を求める産業界に身を置く中であって、実っている果実の収穫だけでなく、新たに実を付ける若い木々を育てる挑戦マインドの必要性を改めて惹起されます。今後、彼らのダイナミックな成長力に技術力の蓄積と洗練さが加わって更なる変貌を遂げる事は間違いないと感じます。未だ猥雑な町並みですら、正に日々変化する様子も含めて、「成長する」勢いを肌で感じてみられることをお勧めします。

追：アルジェリアの地で尊い命を落とされた同窓生木山聡さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。



CADユーザー様の現地事業所のような（大連とスラバヤ）



先日訪問したインドネシアで建設中の国際空港

●平成23年度 会計報告

1. 一般会計収支 <自：平成23年3月1日～平成24年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	7,071,720
積立金の取り崩し	0
雑収入	173,472
前期繰越金	21,577,359
合 計	28,822,551

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	50,875
	広報費	5,043,125
	助成・貸与	2,937,430
	活動経費	337,885
事務費	会議費	181,580
	雑費	9,008
新規積立 (積立会計へ)		0
次期繰り越し		20,262,648
合 計		28,822,551

2. 積立金会計収支 <自：平成23年3月1日～平成24年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額	2,057,093
積立	50,151,013
合 計	52,208,106

■支出

科目	金額 (円)
積立金の取り崩し	0
次期繰越額	52,208,106
合 計	52,208,106

2012年3月10日

会計担当 坂田 健太

2012年3月10日

会計監査 熊倉 清一
山田 昭博

●平成24年度 会計報告

1. 一般会計収支 <自：平成24年3月1日～平成25年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,336,560
積立金の取り崩し	0
雑収入	197,790
前期繰越金	20,262,648
合 計	25,796,998

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	54,830
	広報費	6,527,624
	助成・貸与	1,550,315
	活動経費	565,965
	同窓会30周年事業	1,624,117
事務費	会議費	49,100
	雑費	7,140
新規積立		0
次期繰り越し		15,417,907
合 計		25,796,998

2. 積立金会計収支 <自：平成24年3月1日～平成25年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額	2,057,093
積立	50,151,013
合 計	52,208,106

■支出

科目	金額 (円)
積立金の取り崩し	0
次期繰越額	52,208,106
合 計	52,208,106

2013年3月2日

会計担当 坂田 健太

2013年3月2日

会計監査 熊倉 清一
山田 昭博

●平成25年度 会計計画

1. 一般会計収支 <自：平成25年3月1日～平成26年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	7,000,000
積立金の取り崩し	0
雑収入	150,000
前期繰越金	15,417,907
合 計	22,567,907

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	4,000,000
	助成・貸与	1,600,000
	活動経費	1,000,000
	大学奨学金寄付	3,000,000
事務費	会議費	100,000
	雑費	100,000
新規積立 (積立会計へ)		0
予備費		500,000
次期繰り越し		12,167,907
合 計		22,567,907

2. 積立金会計収支 <自：平成25年3月1日～平成26年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額	52,208,106
新規積立	0
合 計	52,208,106

■支出

科目	金額 (円)
積立金の取り崩し	0
次期繰越額	52,208,106
合 計	52,208,106

2013年3月2日

会計担当 坂田 健太



お悔やみ

アルジェリア人質事件における
本学同窓生の悲報に接し謹んで哀悼の意を表します。

本学同窓生木山聡さんの悲報に接し、謹んで
哀悼の意を表します。

木山さんは、学生時代に機械系石崎研究室
(現：石崎幸三 名誉教授)でセラミックス研
究に励み、大学院修士修了後に日揮株式会社に
就職され、国際舞台でご活躍されているとお聞
きしておりました。

志半ばにしてこのような事件に巻き込まれて
しまい、本当に無念だったことと思います。

我々卒業生も在学生も、本当に辛く悲しく、
残念でなりません。

ご遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げま
すと共に、同窓生一同、心からご冥福をお祈り
申し上げます。

平成25年1月25日

長岡技術科学大学同窓会 会長 磯部 広信

編集後記

今回の会報では、同窓会設立30周年を記念して新たに会員寄稿などを加え、前回の倍となる12ページに増量しました。新しい同窓会システムを導入し、同窓会と会員、および会員同士の交流を支援する態勢が整いつつあります。今後は、同窓会システムやFacebookページも利用して、密な情報発信を行ってまいりますので、引き続き、会員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <http://nagaokaut.alumnet.jp/>

Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。

長岡技術科学大学同窓会報 平成25年3月25日発行

この同窓会報は環境にやさしいFSCTM森林認証紙を使用しています。



(13000)